



平成30年1月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成29年12月7日

上場会社名 スバル興業株式会社 上場取引所 東  
 コード番号 9632 URL http://subaru-kougyou.jp  
 代表者(役職名) 代表取締役社長 (氏名) 小林 憲治  
 問合せ先責任者(役職名) 取締役総務部長 (氏名) 竹島 美喜 (TEL) (03)3213-2861  
 四半期報告書提出予定日 平成29年12月15日 配当支払開始予定日 —  
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無  
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成30年1月期第3四半期の連結業績(平成29年2月1日～平成29年10月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
30年1月期第3四半期	17,067	10.9	2,489	31.1	2,513	30.6	1,654	27.6
29年1月期第3四半期	15,384	3.6	1,898	21.8	1,924	21.5	1,296	35.7

(注) 包括利益 30年1月期第3四半期 1,674百万円(27.7%) 29年1月期第3四半期 1,311百万円(35.0%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
30年1月期第3四半期	643.17	—
29年1月期第3四半期	498.83	—

※平成29年8月1日付で、普通株式10株につき1株の割合をもって株式併合を実施しております。前連結会計年度の期首に当該株式併合が行われたと仮定し、1株当たり四半期純利益を算定しております。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
30年1月期第3四半期	25,033	20,646	80.6
29年1月期	22,535	19,314	83.7

(参考) 自己資本 30年1月期第3四半期 20,182百万円 29年1月期 18,867百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
29年1月期	—	3.75	—	9.25	13.00
30年1月期	—	3.75	—	—	—
30年1月期(予想)	—	—	—	142.50	—

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 有

※平成30年1月期(予想)の1株当たり期末配当金142.50円には、特別配当105円が含まれております。詳細は、本日付で別途公表いたしました「平成30年1月期(第104期)配当予想の修正に関するお知らせ」をご覧ください。

平成29年8月1日付で、普通株式10株につき1株の割合をもって株式併合を実施しております。これに伴い平成30年1月期(予想)の1株当たり期末配当金につきましては、株式併合の影響を考慮した金額を記載し、年間配当金合計は「—」として記載しております。詳細は「業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項」をご覧ください。

3. 平成30年1月期の連結業績予想(平成29年2月1日～平成30年1月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	22,000	8.6	2,700	24.4	2,720	23.6	1,740	18.9	676.34

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※平成29年8月1日付で、普通株式10株につき1株の割合をもって株式併合を実施しております。これに伴い平成30年1月期の連結業績予想における1株当たり当期純利益につきましては、株式併合の影響を考慮しております。詳細は「業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項」をご覧ください。

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無  
 (連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)  
 新規 一社(社名) 、除外 一社(社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無  
 ② ①以外の会計方針の変更 : 無  
 ③ 会計上の見積りの変更 : 無  
 ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	30年1月期3Q	2,662,000株	29年1月期	2,662,000株
② 期末自己株式数	30年1月期3Q	89,871株	29年1月期	88,850株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	30年1月期3Q	2,572,688株	29年1月期3Q	2,599,563株

※平成29年8月1日付で、普通株式10株につき1株の割合をもって株式併合を実施しております。期末発行済株式数、期末自己株式数及び期中平均株式数につきましては、前連結会計年度の期首に当該株式併合が行われたと仮定して算定しております。

※ 四半期決算短信は四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(業績予想の適切な利用に関する説明)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。なお、業績予想に関する事項については、添付資料3ページ「(3) 連結業績予想などの将来予想情報に関する説明」をご覧ください。

(株式併合後の配当及び連結業績予想について)

平成29年4月27日開催の第103回定時株主総会の決議により、平成29年8月1日付で普通株式10株を1株に株式併合いたしました。

なお、株式併合を考慮しない場合の平成30年1月期の配当予想及び連結業績は以下のとおりです。

- 平成30年1月期の配当予想 1株当たり配当金 期末 3円75銭  
特別配当 10円50銭
- 平成30年1月期の連結業績予想 1株当たり当期純利益 通期 67円63銭

## ○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(セグメント情報等)	8

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

## (1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、企業収益や雇用・所得環境の改善が進み、緩やかな回復基調が続いているものの、海外経済の不確実性や金融資本市場の変動の影響等により、景気の先行きは不透明な状況で推移いたしました。

このような情勢のもと、当社グループは各事業において業績の向上に努めたところ、当第3四半期連結累計期間における売上高は170億6千7百万円（前年同期比10.9%増）、営業利益は24億8千9百万円（前年同期比31.1%増）、経常利益は25億1千3百万円（前年同期比30.6%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益は16億5千4百万円（前年同期比27.6%増）となりました。

なお、期中8月に、橋梁、土木構造物等の設計業務を主力事業とするアイ・エス・エスグループ3社（株式会社アイ・エス・エスグループ本社、株式会社アイ・エス・エス、株式会社アイ・エス・エス・アールズ）を連結子会社にいたしました。

以下、セグメント別の概況をご報告申し上げます。

## (道路関連事業)

道路関連事業においては、公共投資が引き続き高い水準を維持しており、維持・補修分野においても、道路、橋梁等の既存インフラの補修や耐震補強等を中心に堅調に推移いたしました。しかしながら、建設技能者不足や受注競争の激化等、依然として予断を許さない状況が続きました。このような中、積極的な営業活動により、高速道路をはじめとする維持作業・補修工事の受注に努めるとともに、施工体制の強化や積極的な技術提案等により、既存工事の増工や追加受注を積み重ねました。また、原価管理の徹底によるコストの削減を図り、業務の効率化による収益性を高めました。

これらの結果、売上高は145億9千3百万円（前年同期比12.5%増）、セグメント利益は24億6千2百万円（前年同期比31.9%増）となりました。

## (レジャー事業)

『有楽町スバル座』における映画興行は、期中17作品を上映し、「八重子のハミング」「君の名は。」「エルネスト もう一人のゲバラ」等が好評を博し、売上高は前年同期を上回りました。

飲食事業は、個人消費の持ち直しの動きが続いているものの、本格的な回復には至っておらず、原材料価格の上昇や人手不足を要因とする人件費の増加等、依然として厳しい状況が続きました。飲食店舗では食の安全・安心を第一とし、お客様の嗜好にあわせたメニュー提供等による集客増に努め、物品販売では、高速道路売店、観光施設売店向けの炭酸飲料水や菓子類の販売は順調に推移しましたが、売上高は前年同期並みとなりました。

マリーナ事業は、ヨットレース「スバルザカップ」等のイベントを行い、利用者サービスの向上に努めたところ『東京夢の島マリーナ』『浦安マリーナ』における契約艇数は引き続き高水準で推移いたしました。また、施設内の船舶給油所、レストラン、「イーノの森」ドッグラン等も好調に稼働したこともあり、売上高は前年同期を上回りました。

以上の結果、レジャー事業全体の売上高は20億1千万円（前年同期比3.0%増）となり、セグメント利益は1億5千4百万円（前年同期比24.3%増）となりました。

## (不動産事業)

不動産事業は、『吉祥寺スバルビル』をはじめとした各賃貸物件の入居状況は堅調に推移したものの、一部物件において計画的な修繕工事を行い、それに伴う除却損が発生したこともあり、売上高は4億6千4百万円（前年同期比1.2%増）、セグメント利益は2億8千6百万円（前年同期比5.3%減）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当第3四半期連結会計期間末の総資産は、受取手形及び売掛金の減少等がありましたが、現金及び預金、のれん、保険積立金の増加等により前連結会計年度末に比べ24億9千8百万円増の250億3千3百万円となりました。

負債は、未払法人税等の増加、賞与引当金の増加等により前連結会計年度末に比べ11億6千6百万円増の43億8千7百万円となりました。

純資産は、利益剰余金の増加等により前連結会計年度末に比べ13億3千1百万円増の206億4千6百万円となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

平成30年1月期通期の連結業績予想につきましては、平成29年9月7日に公表しました予想から変更はありません。

## 2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成29年1月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成29年10月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	5,632,227	7,418,188
受取手形及び売掛金	4,443,393	3,905,821
商品	65,799	77,179
未成工事支出金	602,186	634,640
原材料及び貯蔵品	89,361	132,206
繰延税金資産	73,721	135,440
短期貸付金	1,200,000	1,200,180
その他	94,490	149,485
貸倒引当金	△37,544	△42,539
流動資産合計	12,163,637	13,610,603
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	2,441,517	2,434,373
機械装置及び運搬具(純額)	1,580,766	1,603,098
土地	4,568,170	4,554,587
建設仮勘定	723	16,800
その他(純額)	146,603	136,911
有形固定資産合計	8,737,781	8,745,770
無形固定資産		
のれん	—	720,079
その他	26,915	31,137
無形固定資産合計	26,915	751,217
投資その他の資産		
投資有価証券	121,160	128,329
繰延税金資産	51,867	54,774
差入保証金	824,678	828,445
保険積立金	498,430	713,169
その他	125,703	211,846
貸倒引当金	△14,365	△10,220
投資その他の資産合計	1,607,475	1,926,346
固定資産合計	10,372,172	11,423,334
資産合計	22,535,809	25,033,938

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成29年1月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成29年10月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	1,390,205	1,484,175
未払法人税等	365,753	570,291
賞与引当金	74,059	267,453
役員賞与引当金	12,800	—
資産除去債務	8,932	—
その他	640,204	968,311
流動負債合計	2,491,955	3,290,232
固定負債		
繰延税金負債	5,086	35,014
退職給付に係る負債	180,895	240,339
資産除去債務	241,841	250,505
その他	301,669	571,723
固定負債合計	729,494	1,097,582
負債合計	3,221,449	4,387,815
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	1,331,000	1,331,000
資本剰余金	1,057,028	1,057,028
利益剰余金	16,796,533	18,116,735
自己株式	△328,187	△333,991
株主資本合計	18,856,375	20,170,772
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	10,774	11,569
その他の包括利益累計額合計	10,774	11,569
非支配株主持分	447,210	463,780
純資産合計	19,314,360	20,646,123
負債純資産合計	22,535,809	25,033,938

## (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

## 四半期連結損益計算書

## 第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成28年2月1日 至平成28年10月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成29年2月1日 至平成29年10月31日)
売上高	15,384,625	17,067,966
営業費用	12,570,861	13,514,743
売上総利益	2,813,764	3,553,222
一般管理費	915,400	1,063,937
営業利益	1,898,363	2,489,284
営業外収益		
受取利息	1,763	947
受取配当金	791	791
受取保険金	6,000	6,169
受取補償金	6,998	8,220
その他	16,582	20,011
営業外収益合計	32,136	36,140
営業外費用		
固定資産売却損	—	8,768
その他	5,782	3,442
営業外費用合計	5,782	12,210
経常利益	1,924,717	2,513,214
特別利益		
投資有価証券売却益	300	—
保険解約返戻金	8,405	1,576
特別利益合計	8,705	1,576
特別損失		
減損損失	14,130	—
特別損失合計	14,130	—
税金等調整前四半期純利益	1,919,292	2,514,790
法人税、住民税及び事業税	640,824	896,054
法人税等調整額	△35,267	△55,099
法人税等合計	605,556	840,954
四半期純利益	1,313,736	1,673,835
非支配株主に帰属する四半期純利益	16,991	19,149
親会社株主に帰属する四半期純利益	1,296,744	1,654,686



四半期連結包括利益計算書  
第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成28年2月1日 至平成28年10月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成29年2月1日 至平成29年10月31日)
四半期純利益	1,313,736	1,673,835
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△2,683	795
その他の包括利益合計	△2,683	795
四半期包括利益	1,311,053	1,674,631
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	1,294,061	1,655,481
非支配株主に係る四半期包括利益	16,991	19,149

## (3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業的前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

## I 前第3四半期連結累計期間(自平成28年2月1日至平成28年10月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

	報告セグメント				調整額 (千円) (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (千円) (注)2
	道路関連事業 (千円)	レジャー事業 (千円)	不動産事業 (千円)	計 (千円)		
売上高						
外部顧客への売上高	12,975,087	1,951,080	458,457	15,384,625	—	15,384,625
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	569,410	43,340	612,750	△612,750	—
計	12,975,087	2,520,490	501,798	15,997,376	△612,750	15,384,625
セグメント利益	1,866,594	124,651	303,039	2,294,285	△395,921	1,898,363

(注) 1 セグメント利益の調整額△395,921千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用であります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

## II 当第3四半期連結累計期間(自平成29年2月1日至平成29年10月31日)

## 1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

	報告セグメント				調整額 (千円) (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (千円) (注)2
	道路関連事業 (千円)	レジャー事業 (千円)	不動産事業 (千円)	計 (千円)		
売上高						
外部顧客への売上高	14,593,759	2,010,168	464,038	17,067,966	—	17,067,966
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	561,241	41,773	603,015	△603,015	—
計	14,593,759	2,571,410	505,812	17,670,981	△603,015	17,067,966
セグメント利益	2,462,218	154,893	286,871	2,903,983	△414,698	2,489,284

(注) 1 セグメント利益の調整額△414,698千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用であります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

## 2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

「道路関連事業」において、株式会社アイ・エス・エスグループ本社の全株式を取得したことに伴い、同社及びその子会社である株式会社アイ・エス・エス及び株式会社アイ・エス・エス・アールズを当第3四半期連結会計期間より連結の範囲に含めております。

なお、当該事象によるのれんの増加額は、当第3四半期連結累計期間において738,543千円であります。